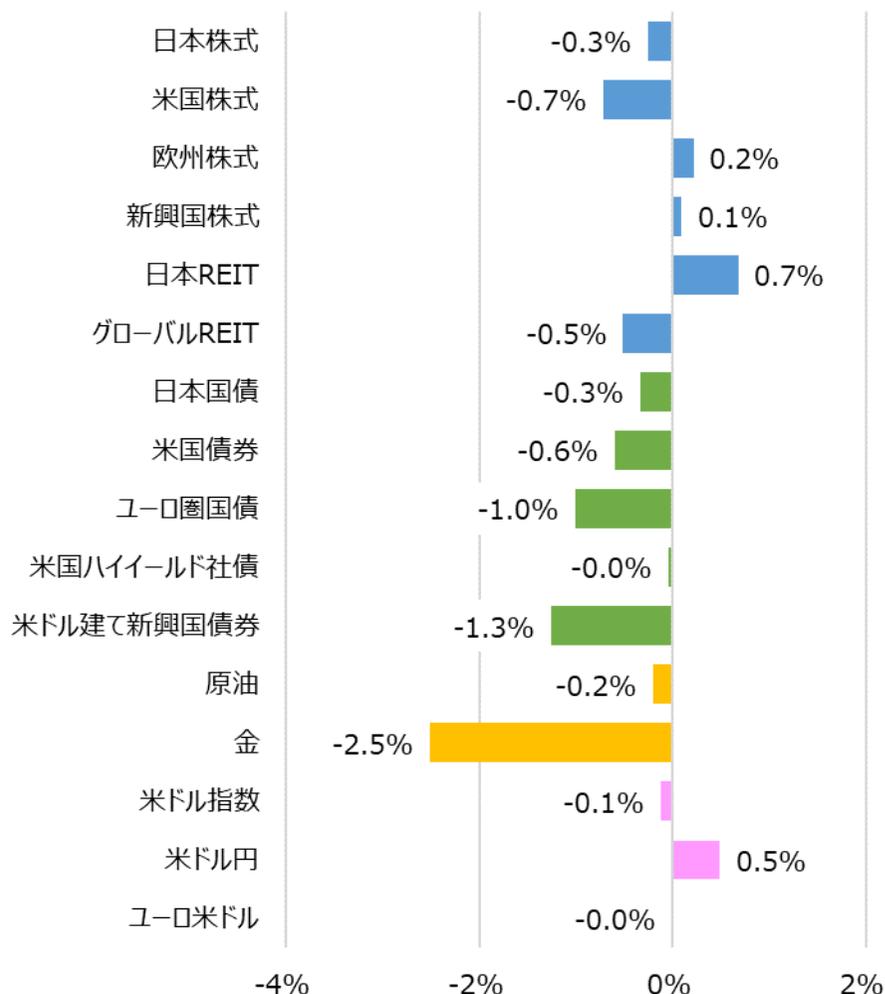




Weekly Market Review

期間：2021年2月15日～2021年2月19日



【日本株式】

週前半は好調に推移しましたが、急ピッチの上昇による利益確定売りなどから上値が重くなりました。米ファイザー製のワクチン接種が開始され、2020年10-12月期実質GDP速報値は予想を上回る伸びとなりました。一方、内閣府発表の機械受注統計では、民間設備投資の先行指標とされる「船舶・電力を除く民需」が2020年10-12月期に6四半期ぶりのプラスとなりましたが、21年1-3月期は再びマイナスに転じる見込みとされました。

【米国株式】

高値警戒感や長期金利の急上昇から売りが優勢でした。バリュエーション面で割高感が強まった大型ハイテク株が売られました。トランプ前大統領の弾劾裁判が早期に決着したことから追加経済対策の議会審議が進展するとの期待が高まったことや、小売売上高速報値や鉱工業生産などの良好な経済指標が好材料視されましたが、新規失業保険申請件数が予想外に2週連続で増加し、雇用情勢の改善鈍化が懸念材料となりました。

【欧州株式】

英国株が牽引役となりました。英政府は当初目標通りのペースでワクチン接種が進んでいると公表し、都市封鎖の早期解除への期待が高まりました。また、英国の購買担当者景気指数は前月から大幅な改善となりました。ユーロ圏でも、欧州経済研究センター発表の景気予測指数が前月から大幅に上昇するなど、景気回復基調が確認されました。

【新興国株式】

春節休暇明けの台湾株のリターン貢献度が高くなりました。一方で、テンセントや美团、アリババグループなどの中国ハイテク株が軟調でした。急ピッチで上昇してきたインド株も利益確定売りに押されました。感染拡大に歯止めがかからず、対米ドルで通貨安が進んだブラジル株もマイナス寄与となりました。

【日本REIT】

株式市場の急ピッチの上昇から、出遅れているREIT市場への資金シフトが見られました。ただし、国内長期金利が米長期金利の上昇に連れた動きとなったことで、分配利回りという尺度からの相対的な魅力度が低下し、上値が重くなりました。

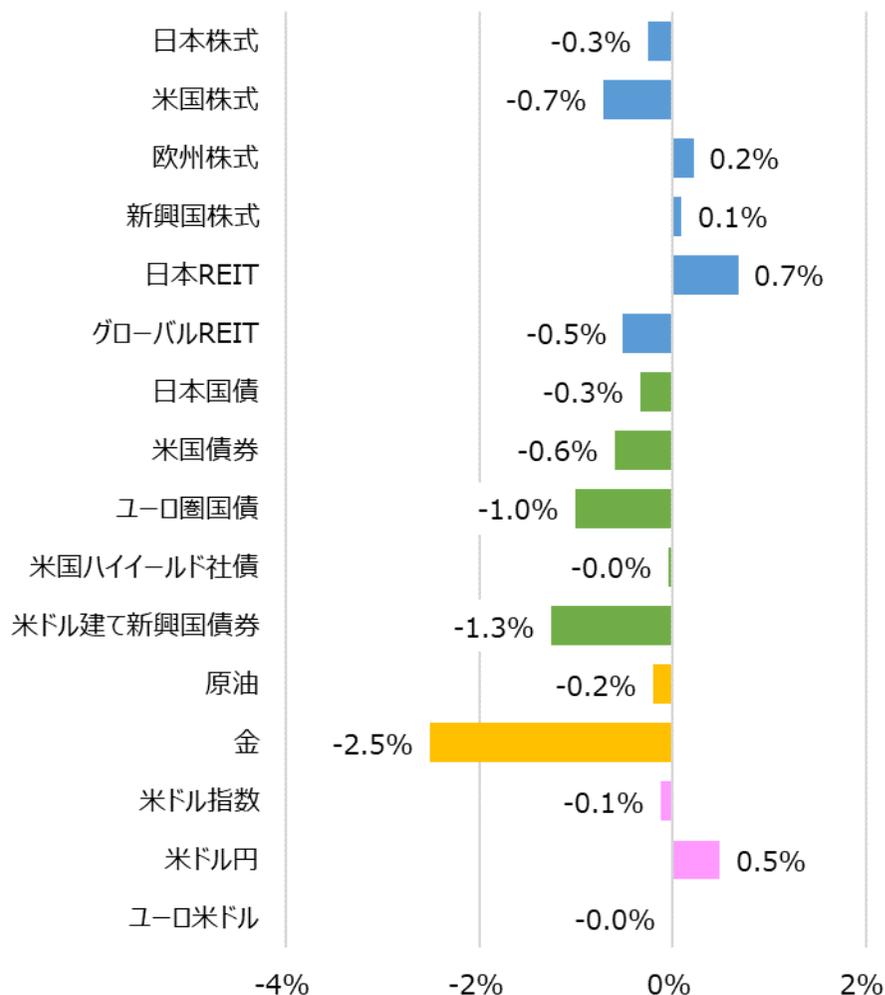
【グローバルREIT】

好調なパフォーマンスを維持していた米国REITが利益確定売りに押され、最大のマイナス寄与となりました。物流やオフィスのほか、住宅用REITも下落しました。住宅建設許可件数や中古住宅販売件数などの住宅関連指標は堅調でした。



Weekly Market Review

期間：2021年2月15日～2021年2月19日



【日本国債】

米長期金利の上昇に連れられた動きとなったほか、5年や20年の国債入札が軟調な結果だったことなどから、**10年国債利回りは2018年11月以来の0.1%台まで上昇**しました。3月会合での発表が予定されている日銀の政策点検で、長期金利の変動幅拡大を許容するとの観測が根強く、長期金利の上昇圧力になっています。

【米国債券】

10年国債利回りは昨年2月下旬以来の1.3%台まで上昇しました。小売売上高など経済指標の堅調さや、**米生産者物価指数や輸入物価指数の伸び加速**、**イエレン財務長官が追加経済対策の必要性**を訴えたことなどがインフレ高進懸念に繋がりました。来週に複数年限の国債入札を控えていることも需給悪化を警戒させました。

【ユーロ圏国債】

ECBが公表した理事会議事要旨では、**足もとの国債利回りの上昇を問題視していない**と明らかになり、主要国債と周辺国債ともに軟調でした。スペインのカタルーニャ州議会選挙で独立派が優位を保ったことで**同国債が大幅に下落**しました。域外の英国でも、消費者物価指数の前年比伸び率が予想を上回り、長期金利の上昇圧力となりました。

【米国ハイイールド社債】

基準となる米国債利回りは大幅に上昇しましたが、**クレジットスプレッドが縮小**し、小幅な下げにとどまりました。セクター別では、**エネルギーが堅調**な一方、**通信や食品などが軟調**でした。

【新興国債券（米ドル建て）】

新興国債券の**クレジットスプレッドは小幅に拡大**しました。米南部の寒波の影響による電力供給障害が波及した**メキシコなどのマイナス寄与**が大きくなりました。

【コモディティ（金・原油）】

金は米長期金利の上昇から大幅安でした。30年インフレ連動国債の入札が不調に終わったこともあり、**米名目長期金利以上に実質長期金利が上昇**しました。原油は、米国の異常寒波による生産障害への懸念が相場を押し上げましたが、**WTI原油先物価格（1番限）が2020年1月以来の60ドル台まで回復**したことで利益確定売りに押されました。

【米ドル指数】

国際商品市況が堅調だったことから豪州などの**資源国通貨が対米ドルで買われ**ました。景気回復期待が高まった英ポンドも対米ドルで上昇しました。半面、米ドル金利の上昇観測から債務負担増が懸念された**新興国通貨の一角が対米ドルで下落**しました。



当資料のお取り扱いに関する留意事項、使用している指数等について

当資料は情報提供を目的としてアストマックス投信投資顧問株式会社※が作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。当資料は当社が信頼できると判断した情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料中に記載した内容、数値、図表等は、当資料作成時点のものであり、今後、予告なく変更することがあります。当資料で使用している各指数に関する著作権、知的所有権その他一切の権利はそれぞれの指数の開発元もしくは公表元に帰属します。なお、当資料のいかなる内容も将来の投資成果を示唆ないし保証するものではありません。

※2021年3月8日付で商号を「PayPayアセットマネジメント株式会社」に変更する予定です。

日本株式：TOPIX（東証株価指数）

米国株式：S&P500種株価指数（米ドルベース）

欧州株式：STOXX Europe 600種株価指数（ユーロベース）

新興国株式：MSCI新興国株式指数（米ドルベース）

日本REIT：東証REIT指数

グローバルREIT：FTSE EPRA/NAREITグローバルREIT指数（米ドルベース）

※文中に世界株式とある場合、MSCI All Country World Index（新興国を含む全世界株式指数、米ドルベース）をさします。また、新興国通貨とはMSCI新興国通貨指数（対米ドル）をさします。

日本国債：FTSE日本国債指数

米国債券：ブルームバーグ・バークレイズU.S.アグリゲイト・フロートアジャステッド指数（米ドルベース）

ユーロ圏国債：ブルームバーグ・バークレイズ・グローバルアグリゲイト・ユーロガバメント・フロートアジャステッド指数（ユーロベース）

米国ハイイールド社債：ICE バンク・オブ・アメリカ・メリルリンチ米国ハイイールド・コンストレインド指数（米ドルベース）

米ドル建て新興国債券：J.P.Morgan 米ドル建て新興国債券コア指数（米ドルベース）

原油：S&P GSCI原油エクセスリターン指数（米ドルベース）

金：S&P GSCI CME金エクセスリターン指数（米ドルベース）

米ドル指数：ICE USが算出・公表する米ドルインデックス

出所：ブルームバーグ